

からくさもん のき ひらがわら
パルメット唐草文軒平瓦
 (法隆寺若草伽藍出土品)



現存幅28.0cm 厚5.7cm
 飛鳥時代(7世紀)
 奈良 法隆寺

法隆寺創建期の「若草伽藍」の堂塔に葺かれた軒平瓦。唐草文様は焼成前の粘土に直接手彫りされている。この軒平瓦、世界の瓦の歴史の中で、とても重要な意義を持つものなのである。

日本の瓦葺き建物は、寺院に初めて現れた。『日本書紀』によると、崇峻天皇元年(588年)、僧や瓦博士ら四人の技術者が百濟より来日し、飛鳥寺(法興寺)の造営が始まった。飛鳥寺創建期の軒瓦(軒先を飾る専用の瓦)を見ると、軒丸瓦は蓮花文様を有する一方、軒平瓦は存在せず、平瓦を二枚重ねることでその用を足していたようだ。つまり、日本最初の瓦屋根の軒先には、軒丸瓦にのみ文様が施されていたことになる。

飛鳥寺竣工後、程なくして始まったであろう法隆寺若草伽藍の造営に際して、一つの画期的な出来事が起きた。日本のみならず、世界で初めて、軒平瓦にも文様を施すアイデアが生まれたのである。ただし、飛鳥寺の軒丸瓦のように、木型を用いる方法ではなく、文様を手彫りで表す方法であった。弧状の木型を作り出す発想がなかったのか、技術がなかったのかはわからない。しかし、伽藍の複数の建物に葺かれた軒平瓦は数百に及ぼう。一点一点彫り上げるのに要したであろう時間は、想像もつかない。

本品の唐草文をじっくり観察してみると、彫りが深く、重厚な感じを受ける。初めての試みとして、文様をしっかりと刻もうとしたのだろうか。一方で蔓の流れはどことなくぎこちない。瓦に文様を手彫りする技術は百濟にもみあたらず、熟練の技術者などいなかったためかもしれない。

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

◆西新館名品展「珠玉の仏教美術」にて3月14日まで展示

展示品の
 みどころ

りょうず あいぜんまんだら
両頭愛染曼荼羅



絹本着色
 縦91.9cm 横39.3cm
 南北朝時代(14世紀)
 当館

愛欲と煩惱を象徴する愛染明王、一切の魔を降伏する不動明王という二つのほけが複雑に合体した忿怒尊。一つの体に二つの顔、六本の手をもつという妖しいその姿は、鮮烈な赤の色彩と相まって見るものを魅惑してやまない。

二頭一身の愛染明王は、金剛界と胎藏界、理と智、男性と女性など、相対する原理が不二であることを体現する尊格とされており、とりわけ本図のように左面を不動、右面を愛染とするのは醍醐寺僧勝賢の説といわれる。さらに画面上方に文殊菩薩や星宿とみられる円輪、北斗七星を配するなど、他に例を見ない極めて特色ある図像を採用する点も大変注目される。醍醐寺を中心とする真言宗小野流では、頭上に北斗七星を配する愛染明王像や、文殊菩薩を中尊とする北斗曼荼羅が流布したことが知られており、本図のような愛染明王信仰と星宿信仰が複雑に交錯する図像も、恐らく小野流に近い環境の中で生み出されたのだろう。

その一方、両頭愛染明王を背に乗せる獅子は、目を大きく見開き、大きな口で三鈷杵をくわえながら愛嬌ある表情を浮かべており、主尊の二つの顔に表れる恐ろしい忿怒相と好対照をなしている。さらに画面下方に描かれる不動明王の二人の使者、象に乗る矜羯羅童子と獅子に乗る制吒迦童子は、射的に興じるわんぱく少年のようでなんと愛らしい。真言密教の秘奥を極めた図像でありながら、劇画のようなユーモアあふれる誇張された表現にこそ、本図の最大の魅力があるといっても過言ではない。

谷口 耕生(当館学芸部教育室長)

◆西新館名品展「珠玉の仏教美術」にて1月11日から2月5日まで展示

開館日時(1月~3月)

■開館時間/午前9時30分~午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで
- ・なら瑠璃会の期間(2月8日~14日)は午後8時30分まで
- ・東大寺二月堂修二会(お水取り)の期間中、3月1日、2日、5日~9日、13日、14日は午後6時まで、3月12日は午後7時まで
- ※いずれも、入館は、閉館の30分前まで

■休館日/毎週月曜日、1月1日(日)

- ・ただし、1月2-9日、2月13日、3月6-13-20日は開館し、1月10日(火)、3月21日(火)は休館

●=国宝、○=重要文化財

観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※1月の開館延長日の午後5時以降に観覧される方は団体料金を適用します。(レイト割引)
- ※成人の日(1月9日)は、新成人の方は無料です。
- ※節分の日(2月3日)は無料観覧日です。
- ※毎月22日にご夫婦で観覧される方は、各半額となります。
- ※中学生以下の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。(子どもといっしょ割引)



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車
 ※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。